



学校だより

令和 元年10月 7日
第18号
四日市市立小山田小学校

実りの秋10月に入りました！

10月に入り1週間が経ちましたが、日中は日差しが強く、30度近い季節外れの暑さが続き、未だに熱中症対策も油断できない状況です。とはいえ、豊かな自然に囲まれた本校では、今年も学級園には秋桜が咲いたり、校庭ではたくさんの栗が収穫できたりと、季節が確実に移り変わっているのが分かります。

この時期は、朝晩と日中の寒暖差が激しく体調管理が難しくなります。ご家庭でもお子さんの健康管理にご留意いただきますようお願いいたします。



校庭で採れた栗

5年生の米づくり 脱穀～もみすり～精米！

9月25日（水）の5限目に、須藤成則さんにご指導いただき5年生が脱穀をしました。須藤さんが小学生の頃に、お家のお手伝いで使われていた「足踏み脱穀機」をお持ちいただき、一人ひとり順番に脱穀を体験しました。その後、須藤さんに使えるように修理していただいた、学校の資料館に収納されていた何と94年前（大正14年製）の唐箕（とうみ）を使って重い米と中身の詰まっていない軽い米と茎やもみ殻を分別しました。また、27日（金）の5限目には、JA 小山田から岡田さんにお越しいただき、持ってきていただいた「もみすり機」を使って「もみすり」をして、玄米にしました。さらに10月4日（金）の6限目には、各班で、最後に玄米に混ざっている小石やもみ殻を手作業で取り除き、荒木先生がお家から持って来ていただいた家庭用精米機を使って、約2升の白米にしました。子どもたちは皆、これまで自分たちで田植えから見守ってきたが稲が昔ながらの製法で真っ白なお米になった様子を見てすごくうれしそうでした。また、昔のほとんど手作業での稲作の工程を体験してきて、農家の方々への感謝の気持ちと一粒一粒のお米を大切にする気持ちを実感できたと思います。

収穫した約2升の白米→



「学びの一体化」乗入授業！

左から、足踏み脱穀機、唐箕、もみすり、精米前の作業の様子↑

西陵中学校区、学びの一体化の取組の一環として、1学期の5年生に引き続き、今学期は6年生が計4回、中学校の先生のお越しいただき、授業を受けます。10月1日（火）の5限目は、6年生が数学を教えてくださいました。各班で一人ひとり順番に模型を使って立方体の展開図を考えました。多い班は全部で11種類中10種類の展開図を探し出しました。終了後には、子どもたちから「難しかったけど、楽しかった」との声が聞かれ、まさに数学の勉強の醍醐味を感じることができたようでした。算数、中でも図形に苦手意識を持つ子が多いので、図形の学習に今まで以上に興味を持ってくれたらと思います。これらの取組を通して、6年生児童の中学校進学への不安を減らし、中学校の学習への意欲付けになることが期待されます。



陶芸教室 3年生ランプシェード・5年生シーサーづくり！

9月27日（金）の5・6限目に、四日市萬古協同組合の酔月陶苑から3名の方にお越しいたき、3年生に陶芸教室「ランプシェードづくり」の出前授業をしていただきました。用意していただいた土の板を一人ひとりが水筒やペットボトルなどに丸めて筒状にし、家から持ってきた料理用の型抜きなどで穴を開けました。おののくり抜いた粘土をくっつけたり、表面に絵や模様をいかたりしました。感性豊かでモノづくりが大好きな3年生のみんなは、「すご〜い」「できた」「先生見て見て」など言いながら制作していました。完成後には子どもたちから「楽しかった」「もっと作りたい」などの声が聞かれました。

また、10月3日（木）の2・3限目には、同協同組合の水谷製陶所から3名の方にお越しいたき、5年生に「シーサー（沖縄県地方の伝説の獣像）づくり」の出前授業をしていただきました。玉づくりという技法で胴体を作り、残った粘土でおのの目の目や口・鼻、牙や角、ひげや耳などのパーツを付け、「阿・吽」の一對のシーサーを制作しました。みんな真剣な表情で制作に取り組み、個性豊かな作品ができ上がりました。子どもらしい自由な発想と大胆な表現の出来栄に講師の先生も「すばらしいオブジェだ」と驚いて見えました。

どちらの出前授業も子どもたちには、郷土四日市の伝統文化に親しんだよい機会となりました。作品はこの後、ばんこの里会館で焼成していただき、3年生の子どもたちの作品は、10月31日（木）～11月5日（火）{※11/3（日）地区文化祭を含む}の小山田小作品展で展示する予定です。



上段が3年生 下段が5年生↑

5・6年生 土のう袋を送るプロジェクト！

9月27日（金）の5・6限目に、5・6年生がボランティア活動として「被災地に土のう袋を送るプロジェクト」に参加しました。今年も千葉県をはじめとして、日本各地で自然災害が発生しました。現地では、瓦礫（がれき）の茶色、黒、灰色と町に色がなく殺風景で、道路わきには除去した瓦礫や泥を入れた白い土のう袋が大量に積まれます。子どもたちは、少しでも被災した方々や災害ボランティアの皆さんの励みになるよう、「被災地には行けないけど、心から応援しているよ」という気持ちを込めて、班ごとに土のう袋にイラストや応援メッセージを描いていました。子どもたちが描いた土のう袋は、プロジェクトチームを通じて被災地に送られます。ご家庭でも今一度、防災についてお話し合いください。左2枚が5年生 右2枚が6年生↓

